

2日目12R
イクメンレーサーですね!選抜戦
出場予定メンバー

順位	選手名	出身地
1	山崎 智也	群馬
2	池田 浩二	愛知
3	峰 竜太	佐賀
4	濱野谷憲吾	東京
5	中野 次郎	東京
6	重成 一人	香川

順位は投票順。枠番は未定。

初日12R
ドリーム戦出場メンバー

枠番	選手名	出身地
1	池田 浩二	愛知
2	瓜生 正義	福岡
3	重野 哲之	静岡
4	太田 和美	奈良
5	佐々木康幸	静岡
6	峰 竜太	佐賀

まだ当確マークが打てないのは、9位の松井繁以下か。金額差も小さく、まだ安心とはいえない。5500万円余りで10位の井口佳典はF休み中で、このレースに出てこないで、ボーダー以下の選手の目標



残る切符は4枚程度!? もつれる争いを注視すべし!

賞金王へ

全ての選手が最終目標とする「賞金王決定戦」へ出場できるのは12名だけ。そのキップをめぐる、大村で最終決戦「第14回チャレンジカップ」が繰り広げられる。優勝すれば賞金ランクの上位からでも一発大逆転が可能だし、ボーダー付近なら、予選を通過できるかが大きなポイントにもなってくる。優勝争いはもちろんだが、誰が賞金王キップを得るかの攻防も、大きな見どころだ。

その賞金12番目の金額だが、6000万円前後の争いと予想される。各選手はある程度、それぞれの立場(賞金ランク)に応じた戦いを想定してくる。当確組は無理をせず、際どいスタートには付き合わないことも考えられる。しかし賞金12位以内でもボーダーよりすぐ上の選手は、予選突破をしないと首が寒くなる。対照的にボーダーよりすぐ下の選手は、予選突破が絶対条件。その後の準備は、もちろん最終日の特選回りになっても、場合によっては滑り込みが可能になってくる。

ボーダーは6000万円前後!?

16位の原田幸哉もよくボーダー付近に近づいた。4年前は13位で及ばなかったが、一昨年は32位から優勝して、一気にゴボウ抜きを演じた。救いは、松井・赤岩・原田の3人とも、大村と相性がいいこと。最近3年間でいずれも8点以上の勝率をあげている。

ボーダー下から逆転を狙う一番手は、16位の原田次郎。関東地区からゼロという事態を救うためにも期待がかかる。今年前半は快調で、夏場から下降気味なのが気になるが、最後に意地を見せ

は、まずこの井口の金額を超えることだ。11位の赤岩善生は、ここ数年、毎年チャレンジカップの主役になっていく。3年前と一昨年は12位で滑り込んだが、昨年は12位でここに来ながら、予選敗退で13位に落ちて涙を吞んだ。今年もまたボーダー付近でこのシリーズを迎えよう。まずは予選突破に全力を尽くすが、最終日の最終走まで目を離さない。

13位の原田幸哉もよくボーダー付近に近づいた。4年前は13位で及ばなかったが、一昨年は32位から優勝して、一気にゴボウ抜きを演じた。救いは、松井・赤岩・原田の3人とも、大村と相性がいいこと。最近3年間でいずれも8点以上の勝率をあげている。

14位の魚谷智之は、今年G1の優勝もなしにここまで賞金を積み重ねてきた。予選での安定感は抜群だが、準優を突破できるかが課題となりそう。対照的に、15位の重成一人は今年、GIとGIIをひとつずつ勝っており、予選の安定感は一息だが、波に乗った時の爆発力は警戒すべき。夢の初出場が近づいてきた。

19位の白井英治は当地で行われた昨年6月のグランドチャンピオン決定戦(以下「グラチャン」)、今年5月の59周年と連続優出中。白井の師匠、今村豊は戸田周年に勝って12位に浮上、体調の心配がなければ、技量的にはまだまだトップを



中野次郎

なれば、技量的にはまだまだトップを

なれば、技量的にはまだまだトップを



魚谷智之

なれば、技量的にはまだまだトップを

なれば、技量的にはまだまだトップを



7月末日時点の賞金ランク20位まで

順位	選手	順位	選手
1	池田 浩二	11	中野 次郎
2	瓜生 正義	12	重野 哲之
3	佐々木康幸	13	湯川 浩司
4	赤岩 善生	14	今村 豊
5	太田 和美	15	坪井 康晴
6	中島 孝平	16	魚谷 智之
7	原田 幸哉	17	松井 繁
8	今垣光太郎	18	吉田 俊彦
9	白井 英治	19	森高 一真
10	重成 一人	20	山崎 智也

上昇の目立つ峰と松井

横の表は、7月末日時点の賞金ランク20位まで。これと次頁に示した10月末日時点の順位を比べると、まず目立つのが篠崎元志・峰竜太の両者。ともに7月末日時点では20位以内に名前がなかったが、その後のSGの活躍で一気に当確へ(篠崎は今回不出場)。

この両者の陰で目立たないが、今年前半は一息だった「王者」松井繁も、さすがにグングンとランクを上げてきた。前半の貯金があった赤岩善生と原田幸哉は、まだ12位前後をキープしているが、このチャレンジカップを持ちこたえることができるか? 同じく7月末日時点ではボーダー内にいた中野次郎と重成一人も再突入を図る。

20位あたりなら優出が必須となり、さらに21位以下の選手は、優出しても上位に食い込むことが最低条件となってくるだろうから、予選から準優の好枠を狙って、毎レースが勝負駆けという仕掛けを連発して来るだろう。この開催では、舟券を買う側も、スポーツ紙などに載る賞金ランク関連の記事を、見落とさぬよう注意しておきたい。

初出場を狙う中野と重成

次頁以降に出場選手を賞金額順で紹介しているが、10月末日現在で6000万円を超えている今垣光太郎までは安泰で、7位の佐々木康幸、8位の峰竜太もまず大丈夫だろう。

トップのふたりは五分?

賞金王決定戦へのボーダー争いは気になるが、このシリーズの優勝争いはひと筋縄では取まらない。過去の戦歴を見ても、実績上位の賞金上位組があつさり予選落ちするケースもある一方で、勢いに乗ってその年2個目のSG獲得という例もあるからだ。